

時過ぎて60年―旅と山と教室で出会った人たち―⑨ 大西清見

大阪市立高校の生徒たち

2008年で私の勤務校は大阪府枚方市に位置する大阪市立高校（以下市立高校と略）でした。10年以上前を振り返ってみると、この市立高校の生徒たちから学ぶことがたくさんありました。市立高校の生徒たちは、勉学のことは別として、部活動はもちろん、全ての学校行事には全員で取り組み、またみんなでいっぱい楽しんでいくというスタイルを持っていました。それに、みんなとても仲が良いのも市立高校の特徴でした。この純真さ、ひた向きさ、団結力はどこからくるのでしょうか。それは自然にも恵まれた自然環境と市立高校の伝統からくるものでしょうか。毎日のように、生徒たちから一生懸命に頑張る感動をもらったのは私だけであったでしょうか。

市立高校の生徒たちの学校生活のクライマックスは3年次の文化祭です。毎年、3年生は全クラスが演劇発表に取り組みでいきます。それも一学期中に文化祭の企画を考え、暑い夏休み中は脚本を完成させ、大道具・小道具の準備をしながら毎日のように演劇の練習に取り組んでいくのです。それらもほとんどは担任の出番もなく、すべて生徒たちが自発的に活動していくのですから驚きです。もちろん9月中旬の文化祭では、3年生の8クラスが競うように演劇で盛り上がっていくことは言うまでもありません。私は10年前の定年の頃も、市立高校の生徒たちから受けたひた向きの姿勢とエネルギーを今後の私の人生にもいただいた、と考えていました。その後の人生にも、少しは苦難もいろいろありますが、時には市立高校の生徒たちのことを思い出して、前を向いて歩いて行こうと思うのです。



文化祭では各クラスの催しのPRの垂れ幕が並ぶ

◇編集後記◇

今年のお盆休みも京都府伊根町の実家に帰省、このような帰省を兼ねて大阪への復路で丹波や但馬の町や村の行事に参加する楽しみも増えてきました。今回は 8 月 16 日、養父市大屋町大杉区の大杉ざんごこ踊りに寄ってみました。マイカーで京都府与謝野町から峠を超えて兵庫県豊岡市出石へ、さらに養父市の中心・八鹿を経て大屋町大杉に着きました。大杉にはこの春に一度訪れたので、この時「ざんごこ踊り」が 8 月 16 日に行われることを知りました。16 日、台風 10 号も過ぎ去り、天候もすっかり晴れ渡っていました。ざんごこ踊りは歴史も古く、17 世紀にさかのぼります。その由来は…1649 年、流行病により村人の多くが亡くなり、田畑が荒れ放題になった時に、時の庄屋が伊勢神宮へ祈願に行き、帰りの奈良の春日大社に寄り、このざんごこ踊りを習い覚えて帰り、氏神である二宮神社に奉納したところ村は平穏無事になったことから始まったと伝えられています。この時から大杉で一番大切な行事となっているそうです。踊る時間は約 2 時間、踊り子は腰太鼓をつけ、頭に馬のたてがみでつくった「シャグマ」をかぶり踊り続けます。大杉の大人、子供たちもたくさん参加され、私も楽しい踊りに参加することができました。このような素晴らしい伝統は、みんなで楽しみながらいつまでも保存をしていきたいものです。（大西清見）



二宮神社、円陣を組んでざんごこ踊りが
始まりました



子供の踊りも主役です

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぽんぽん山（高槻）、奈良県連ニュース滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

発行日 2019 年（令和元年）8 月 26 日 No.403

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、服部、大西清
